



小田原市立芦子小学校学校だより

あしこだより

令和7年度9月号
発行者:石井 美佐子



進んで考え学ぼうとする子・仲間と関わる子・たくましくチャレンジする子

うだるような暑さの中でも、公園では彼岸花が土の中から顔を出していたり、どんぐりが落ちていたりなど、ゆっくりとではありますが、確実に秋に近づいているようです。先日は、拾った栗の実を見せてくれた子がいました。植物達は人間にはないセンサーのようなものがあるのだと思います。「暑さ寒さも彼岸まで」とはよく言ったものだとも毎年この時期に思います。この言葉通りになってくれるといいなと願う毎日です。

実は、上の文は昨年度の「あしこだより9月号」の冒頭です。今年も昨年以上の酷暑で、いつ夏の終わりがくるのかと思っているところですが、それでも彼岸花やどんぐりは昨年と同様に、私たちの前に現れてくれています。改めて自然のもつ偉大なセンサーを感じる今日この頃です。

戦後80年。節目の年です。



夏休み明けの朝会で、子ども達に童謡の「チューリップ」の話をしました。
「さいた さいた チューリップの花が、並んだ 並んだ 赤白黄色、どの花見てもきれいだな」ほとんどの方が口ずさんだことがあるのではないのでしょうか。この歌は、今から80年と少し前の1931年に作られました。作詞をした近藤宮子さんは「どの花みても きれいだな」の言葉に、「どんな小さなものにも、誰にでも、それぞれにいいところがある」というメッセージを込めたそうです。

当時の日本は、暗い時代でした。満州事変へとつながる柳条湖事件が起こったのが1931年です。「お国のために」という言葉に覆い隠され、自分の考えを正直に伝えたり、自分がよいと思う行動をしたりできない（しにくい）時代でした。

子ども達には次のように話を続けました。
「チューリップ」の歌に込められたのは「一人ひとりそれぞれに良さがある。それぞれを大切にしよう」という願いです。けれども、80年以上立ちましたが、逆に、相手のよさを認めないで、自分の国がよければいい、自分さえよければいい、自分の仲間がよければいい、そう思う人が増えてきているように思えて、私は心配になります。世界の他の地域では、今でも、戦争が続いています。今でも、小さい子供が食べるものがなく亡くなっています。



写真は昨年度の中庭の様子です。色とりどりの花と子ども達。当たり前のように感謝です。

自分も、お友達も、日本の国の人も、お隣の国の人も、地球の裏側にいる国の人も、みんな一人ひとりに、よいところがあり、そしてかけがえのない存在です。誰もが笑顔で、幸せにくらす権利があります。

芦子小の児童会の目標は「笑顔で、幸せな学校をつくる」です。皆さんが考えた目標で、とても大きな目標だけれども、大切なことだと私は思います。今日からまた、この目標に向かって、一人ひとりができることを考えて、行動してほしいと思います。まずは、自分の近くにいる人を笑顔にして、自分もお友達も幸せだと感じられるようなクラスや学校をつくっていくことが、今、私達にできることですし、大切なことだと思っています。

小田原市が採択している国語の教科書は光村図書が発行しているものですが、３年生に「ちいちゃんのかげおくり」という物語教材があります。主人公の「ちいちゃん」は物語の終盤で命を落としてしまうのですが、作者のあまんきみこさんは「夏のはじめのある朝、こうして、小さな女の子の命が、空に消えました」と表現しました。先日３年生の国語の学習を参観したときに、ある子が「なんで『ちいちゃんの命が』じゃないんだろうね。なんで『小さな女の子の命が』なんだろうね。」とつぶやきました。作者が選んだ言葉の意味を考えていました。そしてそれを聞いていた他の子ども達の中から「そうだね。そういえばちいちゃんを助けてくれた、あのおじさんはどうなったのかな?」「はす向かいのおばさんはどうなったんだろう?」と、ちいちゃん以外の人にも思いを馳せるつぶやきも出てきました。戦争はたくさんの命が奪われるものだと、知識としては子ども達も知っていることですが、この物語に触れて、戦争で奪われるのは「ちいちゃん」「お母ちゃん」「お兄ちゃん」「お父ちゃん」、そして「はす向かいのおばさん」の命なのだと、誰かにとってかけがえのない大切な人の命なのだと、何となくでも感じていたのではないかと思います。学校では、こうして国語の物語文などをおして、子ども達と一緒に、戦争について考えています。

前号に続いてスポーツフェスティバルの話題です

今年度のスポーツフェスティバルは、私達教職員は、主に次の３点を意識して取り組んでいきたいと考えています。

- 仲間と協力し運動や応援に取り組むことで、みんなで一緒に運動する楽しさや団結する達成感を、児童が味わえるようにしよう。
- 児童の思いや願いを大切に、それぞれの自主性や創造性を生かしながら計画・運営しよう。
- 基本的な集団行動が児童に身につくようにするとともに、勝ち負けにとらわれすぎることなく、公正に行動し協力して責任を果たす態度を育てていこう。

ご承知のとおり、地域での子ども達の過ごし方は、私が子どもの頃と随分変わってきています。（相当古い比較ですが・・・）地域での様々な年齢の集団の中で、先輩から教わったり、後輩のことを気遣ったりといった体験が少なくなっているように思いますがいかがでしょうか。小学校は６学年という幅広い年齢層がともに生活する場でもあります。その中で、横のつながりだけではなく、縦のつながりも大切に、集団としての力を高めていくことができれば、と考えています。そのために、なかよし班での種目を取り入れて（復活でしょうか？）いくことにしました。上の学年の子（先輩）は下の学年の子（後輩）を導く役割と責任があることを自覚できるよう働きかけていきたいと思っています。その中で「先輩たちかっこいいな、私達もいつかああなりたいなあ」と思いを下の学年の子が持てるようになるといいなあと思っています。誰か（何か）に憧れることも「学びへの意欲」の一つの現れです。上の学年の子だけではなく、それぞれの学年で、集団の中でのそれぞれの役割があります。子ども達一人ひとりがその役割を自覚できるように、指導して行ってほしいと職員には伝えています。「自分には役割がある」と思えることが、自己肯定感につながるものと思います。



また今年度は得点をつけることにしました。チームのために精いっぱい応援して、負けて悔しい気持ち、勝って嬉しい気持ち、「勝って奢らず、負けて腐らず」、一生懸命取り組んでいる人への称賛の気持ち、などなどがもてるといいなあと思います。欲張りですが・・・。

今年度のスローガンは「**勝っても、負けても、思い出に残るスポーツフェスティバルにしよう！**」です。このスローガンのもとで、それぞれの力を尽くす（であろう）子ども達へ、温かい声援をいただければ幸いです。

●お知らせ● ９月から、個別支援員として新たに２名の職員が着任しました。よろしくお願いします。